

街なか通信 かたりば 第6号

街なか活性化事業基本計画を取りまとめるにあたり、街なか居住者などを対象に個別訪問（ヒアリング）を実施しましたので、その概要をお知らせします。

住民ヒアリング

実施日：令和5年1月下旬～2月中旬のうち9日間

対象者：街なかに住んでいる方、働いている方 など

⇒20～80代の52名（男性37名、女性15名）から意見聴取

内 容：現状の街なかの課題や今後の目指すべき姿 など

■ 個別訪問（ヒアリング）の様子

みなさまからたくさんの貴重なご意見をいただきました



■ 主なヒアリング項目といただいたご意見

【1】現在の街なかの様子、印象

- ・ いまの雰囲気は好き。中央通りを歩いていると会話ができる雰囲気だったり、コミュニティが好き。
- ・ コンパクトにまとまっていて、特に 高齢者にとっては生活しやすい。
- ・ レトロな雰囲気があった建物が減り、いまだにレトロな雰囲気が維持できているのか疑問。
- ・ レトロと寂れた雰囲気は紙一重。レトロというより統一感なく古いだけ。

【2】普段の生活の中で何があったらよいか

- ・ 子育て世代として、街なかに 公園がないのは気になる。また、日曜日こそ図書館のような施設を開けて欲しい。
- ・ 公園は高齢者にとっても 交流（外出）のきっかけになる。人が歩きたくなるような 取り組みを行って欲しい。健康にも良い。
- ・ 駅の近くに ギャラリーや学生が勉強できるスペースがあると良い。

（裏面に続く）

【2】 普段の生活の中で何があったらよいか（表面からの続き）

- ・ 人が集まれるたまり場のような場所が欲しい。昔は街なかに高齢者が集まれる場所があった。
- ・ 街なかに案内看板が少ない。観光客にお店の場所をよく聞かれる。デザイン性があり、統一感のある看板が必要。
- ・ 歩きたくなるような遊歩道があった方がよい。諏訪神社の参道という位置づけで中央通りを整備したらどうか。

【3】 空き家、空き店舗に対する意見、新たな活用方法

- ・ 既に空き家を活用した飲食の新規出店が出始めている。業界が若返るのでうれしい。今後の色々な取組みについても話がしやすい。
- ・ どんどんやるべき。空き家を活用して流行りものを誘致したらよい。
- ・ 生活に馴染む店がよい。町民もそういった場所があれば行く。
- ・ 人口増加策として 空き家に安く住まわせてあげるのはよい。
- ・ 移住時に下仁田はよそ者に冷たいイメージを持った。移住者を増やすのであれば、ハードだけでなく、ソフト面のサポート、ケアが必要だと思う。
- ・ 地元の店がみんな美味しいから中途半端なことはしない方がよい。遊休不動産の活用にこだわる必要はない。
- ・ こんにゃく体験道場を有効活用した方がいい。道場周辺は観光客も多いので利活用の拠点とするのはもってこい。
- ・ こんにゃく体験道場は立地的にも滞在するにはうってつけの場所。まずは、核となる拠点を整備しないと街なか全体（町民）の気運も高まらない。

【4】 街なかの活性化事業に対する意見、考慮して欲しいこと

- ・ テレビやSNS等を使った 情報発信が重要である。
- ・ 多様性、他者を参画させるまちづくりが理想。
- ・ レトロのためにお金をかけるのであれば、違うところに使って欲しい。
- ・ 景観整備についてはもう手遅れ。今更感が強い。景観維持をやるならば、小規模でやっても意味がない。
- ・ 自然環境は魅力なので、地域資源として捉えてみてはどうか。
- ・ 移住の際に土地探しに苦労した。持ち主が分からない物件も多いので、情報を取りまとめる仕組みが必要。
- ・ 高齢化率が50%以上の町なので、介護施設や福祉施設を誘致して、雇用や人口を守る。その方が下仁田町らしい活性化になるのではないか。
- ・ これまで町の取組みには連続性がない。長期スパンで戦略をもった形で進めて欲しい。



いただいたご意見を踏まえ、“目指すべき街なか”の姿とそれを実現するための取り組みを検討していきます。